

学校の教育目標

ひろい心をもち 豊かに表現できる子

【願う学校像】

「楽しい学校」

今日が満足で、明日が楽しみ = 笑顔・自信・やる気

温かく、明るく、元気で、安心・安全な学校だから、(児童が)行きたい、(教職員が)働きたい、(保護者が)通わせたいと思える学校

【昨年度までの成果○と課題●】

- 課題化から振り返りまで、一定の学び方が身に付き、主体的に臨む姿が増えてきた。
- 交流の時間を意図的に設けることで、自分の考えをもって取り組む姿が増えてきた。
- 課題を解決するために、既習内容とつなげ、根拠を明確にして考える力に弱さがある。
- 相手の反応を見て説明することや算数用語を使って説明する力に弱さがある。
- 学んだことを使って別の方法や他にできることはないか自分で課題を見つける力に弱さがある。

【めざす子どもの姿】

- これまでの学習をもとに、見通しをもって粘り強く課題解決に取り組む子（主体的な学び）
- 自分の考えをもち、多様な表現方法を用いて説明できる子（対話的な学び）
- 仲間と協働して、自分の考えを広げたり深めたりできる子（対話的な学び・深い学び）
- 自己の成長を実感したり、新たな問いを見出して次時への意欲を高めたりする子（主体的な学び）

【研究主題】

主体的に学び，仲間と高め合える子の育成

～対話的な学びを通して，学び合う楽しさを実感できる授業づくり～

【研究仮説】

3つの資質・能力を明確にした単元指導計画を作成し、対話的な学びを位置付けた学習過程を工夫し、深い学びを実現する指導・支援を行えば、主体的に学び、仲間と高め合える子が育成できるであろう。

【研究内容】

(1)3つの資質・能力を明確にした単元指導計画の在り方	(2)対話的な学びの位置付けを工夫した学習指導過程の在り方	(3)深い学びを実現するための指導の工夫
<p>■「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの視点を明らかにした単元指導計画を作成する</p>	<p>■単位時間のねらいを達成するために、学習指導の過程に対話的活動を位置付ける</p> <p><対話的活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人追究（自分との対話） ・ペアでの意見交流 ・グループでの意見交流（スクランブルも含む） ・全体交流 <p>○数学的な見方、考え方を働かせて意見交流できるよう「まとめ」の後の練習問題、評価問題後に対話的活動を位置付ける</p>	<p>■深い学びを実現するための工夫をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えをもたせる工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・課題化（必然性をもたせる） ・見通し（どんな既習が使えるか） ・教材、教具（プリント、情報機器） ○考えを表出するための工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・問題（評価問題）の内容、提示の仕方 ・交流の仕方（形態） ・交流のすすめ方（意図） ・教師の問いかけ ○自己の成長を実感する工夫 <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの仕方

【基盤となる日常実践】

学習規律づくり 学習環境づくり 温かな学級集団づくり 基礎・基本の定着 家庭学習の充実

■主題について

主体的に学ぶ子どもとは「どのような課題や問題にも、目を輝かせ自ら課題解決をしようとする子ども」である。社会の変化が著しい現在、どのような社会になっても「変化に対して受け身ではなく、自らが感性を働かせて、主体的に社会の変化に参画できる」力が必要であると考え。そのため、対話的な学びを位置付けた学習過程を工夫し、深い学びを実現する指導・支援を継続していくことで、学び合う楽しさを実感し「主体的に学び、仲間と高め合える子が育成できる」と考えた。

■めざす子どもの姿について（算数科の学習を通して、次の4つの姿をめざす）

①これまでの学習をもとに、見通しをもって粘り強く課題解決に取り組む子

- ・既習との違いを進んで見つけようとする姿
- ・難しい問題でも解決することに楽しさを感じている姿
- ・自分の考えを必ずノートに書く姿
- ・仲間の意見を反応しながら聴いたりしながら、課題解決の方法を追究する姿

②自分の考えをもち、多様な表現方法を用いて説明できる子

- ・相手意識をもち、相手に分かるように伝えようとする姿
- ・筋道立て、根拠を明らかにして説明する姿
- ・これまでに習った算数用語を使って伝える姿
- ・図や表など視覚的に表し、それを指し示しながら伝える姿

③仲間と協働して、自分の考えを広げたり深めたりできる子

- ・交流場面で自分の考えを発言したり、分からないことを尋ねたりする姿
- ・自分の考えとどこが違うのか聞き比べる姿
- ・多様な解き方や考え方があることに気付く姿
- ・課題を解決する上で、方法や考えが使える根拠や理由についてより理解を深める姿

④自己の成長を実感したり、新たな問いを見出して次時への意欲を高めたりする子

- ・本時学んだことについてノートに書く姿
- ・本時学んだ考え方について異なる条件でも成り立つか検証する姿
- ・本時学んだことが理解でき、問題を要求する姿
- ・次時の学習について、新しいことを学ぶのか、本時の考えが使えるのかなど興味を抱く姿

■対話的な学びを位置付けた学習指導過程

- (1) 問題を把握する
- (2) 課題をつかむ（課題化）
- (3) 個人追究を行う → 交流（ペア、グループ、スクランブル、全体）
- (4) 本時のまとめをする
- (5) 本時学んだ考えを活用する問題を行う → 交流（ペア、グループ、スクランブル、全体）
- (6) 振り返りをする

■学年部でめざす姿

低学年部	中学年部	高学年部
①既習との違いを進んで見つけようとする姿 ②自分の考えを進んで伝える姿	①既習との違いを進んで見つけようとする姿 ②自分の考えを筋道立て、根拠を明らかにして説明する姿	①自分の考えを必ずノートに書く姿 ②多様な表現方法を用いて自分の考えを説明する姿
③交流場面で自分の考えを発言したり、分からないことを尋ねたりする姿 ④板書から本時学んだことが言える姿	③仲間の考えと自分の考えを比べて聴き取る姿 ④板書やノートから本時学んだことが言えたり、書いたりする姿	③仲間の意見を比較検討し、自分の考えを導き出す姿 ④本時学んだ考え方について異なる条件でも成り立つか検証する姿